

ながった幼稚園様バードピア認定地 野鳥調査報告



2023.6.4

太平電機株式会社
ECOひいきプロジェクト
代表取締役社長
樋口公平

裏山の林で休むツミ幼鳥

地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



この資料はCO2を発生しない電力で作製しました。



太平電機株式会社 ECOひいきプロジェクト

調査時使用したもの

- 自動車1台 . . . 現地訪問用
- 望遠鏡 . . . 20倍
- 三脚 . . .
- カメラ . . . 500mm一眼レフ
- 双眼鏡 . . . 8倍
- 記録用紙
- 筆記具、携帯電話、飲み物持参
- 録音機



裏山エリアの野鳥 ラインセンサス調査

- 【日時】 2023.6.4 8:28～8:48 20分
- 【場所】 駐車場→裏山登頂→頂上。同じ道を引き返すコース。
- 【コース】 駐車場→登り口→きり坂→ち坂→さくら坂→もみじ坂→すぎ坂→どんぐり広場(山頂)→同一コースを下る(下りは上りに記録ない種のみ)
- 【調査法】 ラインセンサス法→時速1キロ程度の徒歩、前左右上空に出現する野鳥の姿と声を確認し種類と数を記録。
- 【状況】 木々の葉が茂り、野鳥の視認、撮影は難しかったが、さえずり、地鳴きで確認した。



ビオトープエリア 定点調査

- エリア内に立ち、いる野鳥、飛来する野鳥の種類、行動を声、姿を確認し記録した。
- 2023.6.4 8:53~9:53 60分入り口北側に立ち調査。(基本は数は記録しないが同時複数確認した場合は記した)
- 双眼鏡、望遠鏡、カメラを使用し野鳥の種類と行動を調査



調査定点



ビオトープ



定点から樹冠上空

調査結果 一覧表

日付	鳥類目録7版順	2023.6.04							
累計種数	科	園敷地内確認種	裏山エリア	裏山センサス確認数	ビオトープエリア	留/夏/冬	主な利用	環境省RL	神奈川県RL
1	ハト科	キジバト	○	1	○	留鳥	林		
2	タカ科	ツミ	○	2	○	留鳥	林		絶滅危惧Ⅱ類
3	カワセミ科	カワセミ	○	1		留鳥	水辺		
4	キツツキ科	アオゲラ	○	1	○	留鳥	林		
5	カラス科	オナガ	○	1	○4	留鳥	林		
6	カラス科	ハシブトガラス			○2	留鳥	住宅地		
7	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	2	○2	留鳥	林内/餌台		
8	ツバメ科	ツバメ			○4	夏鳥	林上空		
9	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	2	○3	留鳥旅鳥	林		
10	メジロ科	メジロ	○	1	○	留鳥	林		
11	ムクドリ科	ムクドリ			○4	留鳥	林上空		
合計	10	11	8	11	10				
外来種	ガビチョウ				○				

【考察】 裏山8種11羽 ビオトープ域10種類
全域合計11種類

調査後の報告 裏山のラインセンサス調査考察

【考察】

- 裏山では8種が確認できた。前回より1種少ない。
- 全種合計11羽で、前回の1/3の数となった。
- シジュウカラやメジロが少なく、またエナガ、コゲラなどが確認できなかったことが、種数、数の減少に影響している。
- 繁殖期の後半であり囀りはまだ確認できた
- アオゲラは初認
- アオゲラは何度も出入りしていた。
- ツミは林内では初確認
- カワセミは初記録。林の中から声が確認できた。ビオトープに来ている可能性が高い

ツミはこの後成鳥、幼鳥が同時に確認され、木の股の巣と思われる場所に執着していることが確認された。そのため繁殖していると思われる。餌である小型鳥類が豊富な環境が保たれているといえる

調査後の報告 ビオトープエリア定点調査考察

- ビオトープ域では合計10種が確認できた。
- 初記録はオナガ、ツバメ、ムクドリ
- 夏鳥としてツバメを初記録
- ツバメは樹冠上空を飛行し来しながら飛翔昆虫を探索していると思われる。また、幼鳥を連れた成鳥が確認され、樹冠上空で採食していると思われる。
- ムクドリは群れで西から林を超えて東へ抜けるコースを何度も確認した。
- ビオトープを利用(水飲み、水浴び)する野鳥は見られなかった。
- ツミは成鳥と幼鳥を確認。巣と思われる一定の位置に執着しているように見えた

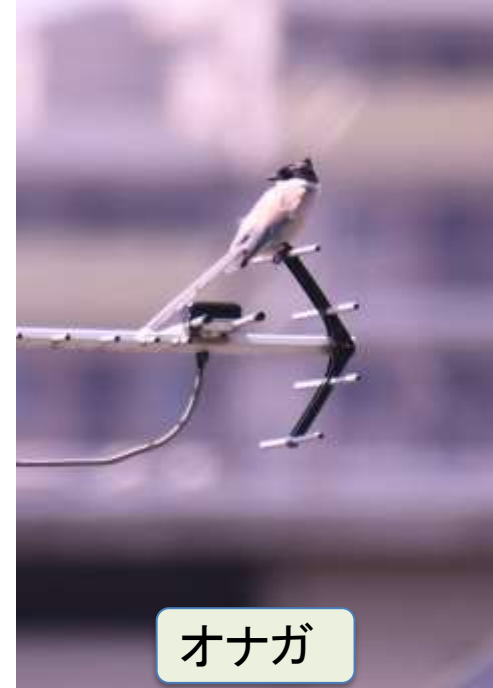
ムクドリ



ツバメ



オナガ



種ごとの解説 ツミ



ツミ幼鳥 林⇒園庭⇒校舎直上⇒林に戻る

- タカ科 一年中生息する「留鳥」
- オス26cm メス30cm
- 神奈川県レッドデータリスト絶滅危惧II類
- 森林で小鳥を餌として生息する。都市近郊の繁殖も増えている
- 成鳥メスと思われる個体が林からでて国道246を超えて旋回していた。
- 同時に裏山から幼鳥が飛び出し、園庭の上を飛び、アンテナにとまり、また裏山の桐の木にとまり、林の中に入る行動を確認できた。
- 成鳥幼鳥の同時確認ができ、裏山で繁殖したと思われる。



ツミ幼鳥 林の中で休む